

社団法人アジア協会アジア友の会

[郵便番号] 550-0002

[住所] 大阪市西区江戸堀 1-2-16 山下ビル 4F

電話: [06-6444-0587] FAX: [06-6444-0581]

電子メール: [yokoyama@jafs.or.jp]

Web: [<http://www.jafs.or.jp>]

# 日本 NGO 連携無償資金協力事業 完了報告書

インド、カルナータカ州ビジャプール地区シンダギ区における職業訓練学校建設事業

## 事業目的

インド、カルナータカ州ビジャプールの地区にて、工業分野において特筆した職業訓練学校を建設し、工学の分野において高い技術を保有した青少年の人材育成を行い、同地区内の就業率の増加を図り、地域の活性化へ繋げ、貧困削減を行うことを目的とする。

## 事業内容

本事業は2010年1月1日から翌年の3月9日までの期間、以下の事業プロセスのもと実施された。

1. 本会インド支部事務所借り上げ
2. 現地スタッフ及び建設コンサルタント雇用
3. 建設業者選定及び契約
4. 資機材の導入
5. 職業訓練学校校舎建設工事
  - 基礎工事、支柱設置、壁、屋根、ドア・窓の設置
  - 塗装及びネームプレート設置
6. 職業訓練学校内装工事
  - 電気工、整備工クラス用の資機材導入
  - 配線工事及び資機材の試運転
6. 地元の住民とのワークショップ
7. インド中央政府認可のための交渉（認可済み）

本会現地派遣スタッフ及びビジャプールの地区内の労働問題により、三度に渡り、事業期間を延長せざるを得なくなった。カルナータカ州全般の建設業に関する労働ストライキなどが起こり、建設作業員が十分に集まらず、度々作業を中断せざるを得なかったことが事業期間延長の大きな原因であったが、事業計画策定の段階において非常事態における事業に与える影響をしっかりと考慮していなかったことは反省材料であり、今後の事業計画策定への課題を残した。今後本会が実施するハード面の事業に関しては、緊急期間を設けることを徹底化し、事業実施を進めていくことを決定した。また、三度目の事業計画延長に関しては、現地派遣の日本人スタッフに延長申請を提出するように指示していたが、フォローアップがなされておらず、事後報告という結果を招いた。今後、現地派遣日本人スタッフに対する指導の強化を行い、今後の本会の活動の向上に繋げていきたい所存である。

建築プロセス及び内容には問題なく、専門の建設コンサルタント常に配置し、インドの建築基準法に準拠しながら、中央政府認可を得るための建築及び資機材導入条件を揃え、建設作業を進めていたために、中央政府指定の公式な職業訓練学校としての認可を得ることができた。これにより、当学校においては、2011年8月から電気工、整備工の2コースが開校される（詳細は以下を参照。）

今後の運営方針として、中央政府指定の条件に基づき、授業料、授業内容、講師・生徒数にて運営を行っていくと同時に、学校の指導内容の向上と生徒の雇用確保及のために随時、近辺及び都心部の会社や工場の責任者などを招聘し、指導内容や生徒の技術内容を分析・評価していただき、同校に反映させていこうと思う。また、同校の生徒と企業との橋渡しの役割を担えるような情報やデータを確保し、生徒の雇用が有利に働くようなものを事務局に保有し、生徒に供給・指導できるようなシステムの構築を目指していく次第である。

中央政府の認可を受けたことにより、すでにその評判は広まっており、必要な生徒数を確保することができた。当面は本会からは奨学金支給を行わず、自立運営を行っていく。また、中央政府からの指定のない特別なクラス（縫製、コンピューターなど）は特別クラスとして追加を行う予定であるが、現時点では地元からのニーズはなく、今後の地元のニーズを聞き取りながら、進めていきたいと思う。特別クラスに関しては、特別枠として別途授業料を追加することが可能であり、そこからの収入を校内の設備投資に充てていき、自立して持続可能な職業訓練学校として運営を行う予定である。7年後からは中央政府から教員給料の補助があり、運営が行われることになっている。

## <職業訓練学校、電気工、整備工コース概要>

### 1. 電気工コース概要

- A) 電気作業における安全面における注意点について (Safety Precaution at Electrical Work)
- B) 電気基礎及び実習 (Basic Electrical Practice)
- C) 基礎電気配線ワークショップ及び実習 (Basic Workshop Practice)
- D) 金属シート作業及び実習 (Sheet Metal Work)
- E) 測量技術実習 (Measuring Technique)
- F) 電気機器及び電灯実習 (Electrical Appliances and Lightening)
- G) 電気配線作業実習 (Wiring Practice)
- H) 電気機械実習 (Electrical Machine)

### 2. 整備工コース概要

- A) 測量機器基礎 (Introduction to Measuring Instruments)
- B) カuttingツール実習 (Cutting Tools)
- C) Introduction to all types of Machines (測量、整備に必要なあらゆる機器の基礎)
- D) 基礎整備工 (Basic Fitting)
- E) 加熱による金属加工の方法 (Forging, Heat Treatment & Metal)
- F) 金属シート作業及び実習 (Sheet Metal Work)
- G) 溶接、冶金、ガスを使用した裁断方法 (Welding, Brazing & Gas Cutting)
- H) 様々な施盤機器の使用方法及び実習
- I) 整備工における安全面と注意点について (Safety Precaution at Workshop)

### 3. 電気工・整備工共通コース (科学及び数学セクション)

- A) 単位 (Unit)
- B) 平方根 (Square Roots)
- C) 比率、割合 (Ratio and Proportion)
- D) 金属元素 (Metals)
- E) 求積法 (Mensuration)
- F) 単一化 (Simplification)
- G) グラフ (Graph)
- H) パーセンテージ (Percentage)
- I) 熱処理 (Heat Treatment)
- J) 数学

### 4. 電気工・整備工共通コース (エンジニア用製図コース)

- A) 製図用具及び材料の基礎 (Introduction to drawing instruments and material)
- B) ラインとそのタイプ (Lines and Its Types)
- C) 寸法 (Dimensioning)
- D) スケール (Scales)
- E) 幾何学上の構造 (Geometric Construction)
- F) 絵で表した図表 (Pictorial Drawing)
- G) 等則図法 (Isometric View)
- H) 三つの角度からの投影図法 (Third Angle Projection)
- I) 正字投影図法 (Orthographic Projection)

### 5. エクストラカリキュラム

- A) バレーボール
- B) 庭の整備
- C) キャンパス清掃
- D) 近辺の高校の電気配線作業

## 講師及びスタッフ数

1. 校長 (1名)
2. 科学・数学セクション共通コース講師 (1名)
3. エンジニア用製図コース共通コース講師 (1名)
4. 整備工コース講師 (1名)
5. 電気工コース講師 (1名)
6. 事務員 (2名)

生徒数： 電気工 21名 整備工 21名

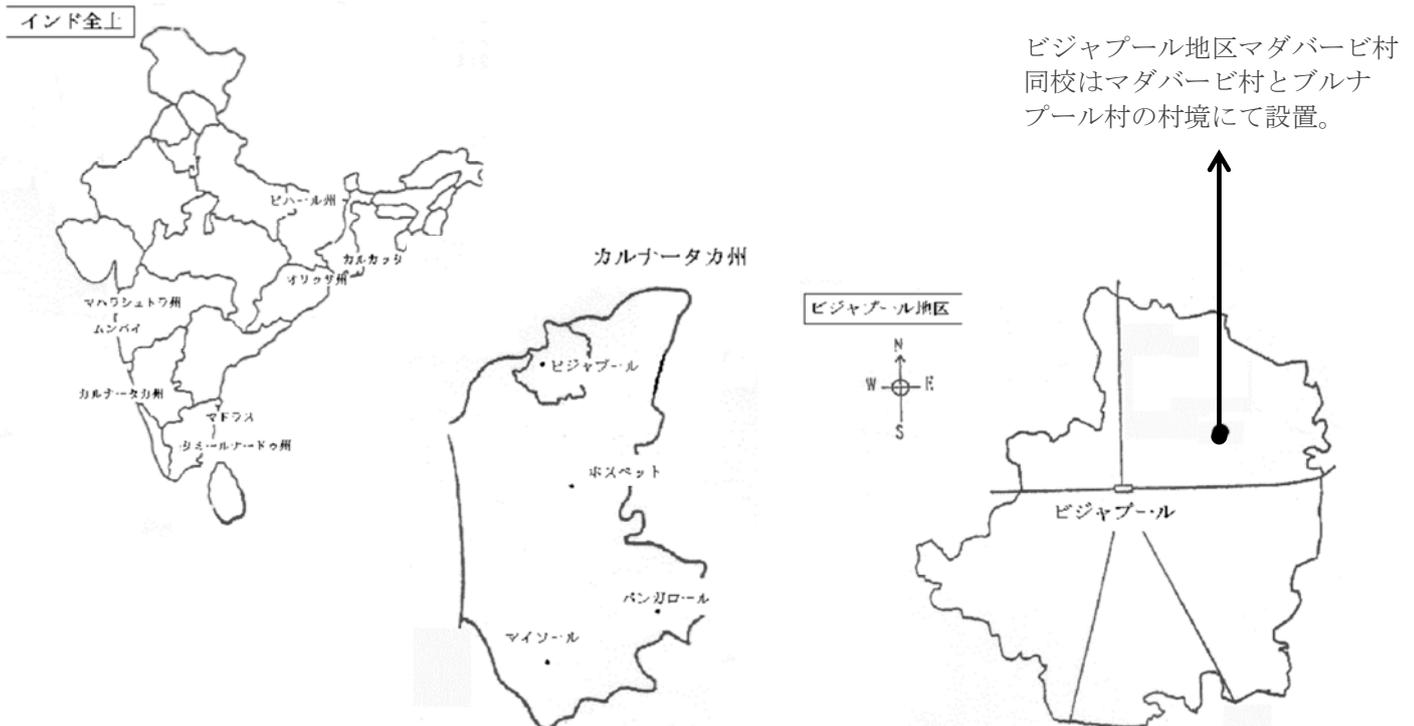
## 事業による成果及び今後の課題

本事業は完成が遅れるなどの問題があったが、無事、中央政府認可の職業訓練学校として完成することができた。上記の生徒規定数にも到達し、講師の雇用も進んでおり、2011年8月の開校を待つのみとなっている。現地住民の「中央政府認可」への認知は高く、生徒規定数を達した現状でも問い合わせが続くなどの嬉しいニュースも届いている。建築段階においてもカルナータカ州の主要都市であるバンガロールの企業からも問い合わせがあるなど、現地の雇用のニーズに答えていることが確認できた。

今後の課題としては、質の高い授業内容を生徒に供給、インド国内の技術ニーズの適切な把握と同校のコースへの反映、企業と生徒への橋渡し、卒業生のフォローアップなどが課題となっている。また、現地の職業ニーズにより中央政府も認可基準を変更することがあるために、その基準を満たすための投資及び資金の確保をいかにこなっていくことが出来るかが課題である。

これらを満たすために、現在、本会では6年計画（内容、収支、予測される投資内容など）を策定しており、雇用情勢の変化、中央政府への対応策などの準備を行っている。また、ムンバイ、デリー、ハイデラバード、バンガロールなどにある中央政府認可の職業訓練学校や企業を視察し、今後と同校に必要な事項を見いだしながら、実践し、同校の発展に努めていくことを決定している。

## 事業実施地地図



## 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	インド、カルナータカ州ビジャプール地区シンダギ区における職業訓練学校建設事業
(2) 贈与契約締結日及び事業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 贈与契約締結日：2009年12月10日</li> <li>・ 事業期間：2010年1月1日 ～ 2010年8月31日</li> <li>・ 延長事業期間：6ヶ月 2011年3月9日まで</li> </ul>
(3) 供与限度額及び実績（返還額）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 供与限度額：11,002,145円</li> <li>・ 実績：11,002,145円（返還額：0円）</li> </ul>
(4) 団体名・連絡先、事業担当者名	<ul style="list-style-type: none"> <li>(イ) 団体名：社団法人 アジア協会アジア友の会</li> <li>(ロ) 電話：06-6444-0587</li> <li>(ハ) FAX：06-6444-0581</li> <li>(ニ) E-mail：yokoyama@jafs.or.jp</li> <li>(ホ) 事業担当者名：横山浩平</li> </ul>
(5) 事業変更の有無	<p>事業変更の有無：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(イ) 申請日：平成22年4月15日 承認日：平成22年4月26日 内容：現地派遣日本人スタッフの父親の病気の看護のために一時帰宅のため事業を一時中断。</li> <li>(ロ) 申請日：平成22年10月25日 承認日：平成22年10月30日 内容：夏の降雨の長引きとインド国内の労働事情による作業員確保が困難になったため。</li> <li>(ハ) 申請日： 承認日： 内容：国内の労働事情による作業員の確保難しく、作業の進捗が遅れてしまったため。</li> </ul> <p>(ハ) に関しては、2010年12月29日の事業地訪問時に確認がとれており、現地派遣日本人スタッフに事業延長申請を提出するように指示をしていたが、指示の徹底化及び本部からのフォローアップが徹底されておらず、現時点における事後報告となってしまった。今後の事業進捗に関する指導内容を更に厳粛にすることと、より密度の高いコミュニケーションを実施していきたい所存である。</p>

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>本事業により、地元のニーズ及び技術発展に必要な職業訓練学校が完成し、中央政府認可を得ることができ、上位目標を達成することが出来た。本年に入学した生徒が2年後卒業し、就業することにより、地元の貧困削減に大いに貢献することになる。今後は就業率100%を目指し、本会及び本校も様々な取り組みを行っていく。</p>
(2) 事業内容	<p>本事業は2010年1月1日から翌年の3月9日までの期間、以下の事業プロセスのもと実施された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本会インド支部事務所借り上げ</li> <li>2. 現地スタッフ及び建設コンサルタント雇用</li> <li>3. 建設業者選定及び契約</li> <li>4. 資機材の導入</li> <li>5. 職業訓練学校校舎建設工事 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎工事、支柱設置、壁、屋根、ドア・窓の設置</li> <li>● 塗装及びネームプレート設置</li> </ul> </li> <li>6. 職業訓練学校内装工事 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気工、整備工クラス用の資機材導入</li> <li>● 配線工事及び資機材の試運転</li> </ul> </li> <li>6. 地元の住民とのワークショップ</li> <li>7. インド中央政府認可のための交渉（認可済み）</li> </ol> <p>本会現地派遣スタッフ及びビジャプール地区内の労働問題により、三度に渡り、事業期間を延長せざるを得なくなった。カルナータカ州全般の建設業に関する労働ストライキなどが起こり、建設作業員が十分に集まらず、度々作業を中断せざるを得なかったことが事業期間延長の大きな原因であったが、事業計画策定の段階において非常事態における事業に与える影響をしっかりと考慮していなかったことは反省材料であり、今後の事業計画策定への課題を残した。今後本会が実施するハード面の事業に関しては、緊急期間を設けることを徹底化し、事業実施を進めていくことを決定した。</p> <p>また、三度目の事業計画延長に関しては、現地派遣の日本人スタッフに延長申請を提出するように指示していたが、フォローアップがなされておらず、事後報告という結果を招いた。今後、現地派遣日本人スタッフに対する指導の強化を行い、今後の本会の活動の向上に繋げていきたい所存である。</p> <p>建築プロセス及び内容には問題なく、専門の建設コンサルタント常に配置し、インドの建築基準法に準拠しながら、中央政府認可を得るための建築及び資機材導入条件を揃え、建設作業を進めていたために、中央政府指定の公式な職業訓練学校としての認可を得ることができた。これにより、本学校には、中央政府認可の学校として、2011年8月から電気工、整備工の2コースが開校される（詳細は以</p>

下を参照。)

今後の運営方針として、中央政府指定の条件に基づき、授業料、授業内容、講師・生徒数にて運営を行っていくと同時に、学校の指導内容の向上と生徒の雇用確保及のために随時、近辺及び都心部の会社や工場責任者などを招聘し、指導内容や生徒の技術内容を分析・評価していただき、同校に反映させていく。また、同校の生徒と企業との橋渡し的な役割を担えるような情報やデータを確保し、生徒の雇用が有利に働くようなものを学校に保有し、生徒に供給・指導できるようなシステムの構築を実施していく。

この度、中央政府の認可を受けたことにより、すでにその評判は広まっており、必要な生徒数を確保することができた。当面は本会からは奨学金支給を行わず、自立運営を行っていく。また、中央政府からの指定のない特別コース（縫製、コンピューターなど）は特別クラスとして追加を行う予定であるが、現時点では地元からのニーズはなく、今後の地元のニーズを聞き取りながら、進めていきたいと思う。特別クラスに関しては、特別枠として別途授業料を追加することが可能であり、そこからの収入を校内の設備投資に充てていき、自立して持続可能な職業訓練学校として運営を行う予定である。7年後からは中央政府から教員給料の補助があり、運営が行われることになっている。

#### <職業訓練学校、電気工、整備工コース概要>

##### 1. 電気工コース概要

- A) 電気作業における安全面における注意点について (Safety Precaution at Electrical Work)
- B) 電気基礎及び実習 (Basic Electrical Practice)
- C) 基礎電気配線ワークショップ及び実習 (Basic Workshop Practice)
- D) 金属シート作業及び実習 (Sheet Metal Work)
- E) 測量技術実習 (Measuring Technique)
- F) 電気機器及び電灯実習 (Electrical Appliances and Lightening)
- G) 電気配線作業実習 (Wiring Practice)
- H) 電気機械実習 (Electrical Machine)

##### 2. 整備工コース概要

- A) 測量機器基礎 (Introduction to Measuring Instruments)
- B) カuttingツール実習 (Cutting Tools)
- C) Introduction to all types of Machines (測量、整備に

	<p>必要なあらゆる機器の基礎)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>D) 基礎整備工 (Basic Fitting)</li><li>E) 加熱による金属加工の方法 (Forging, Heat Treatment &amp; Metal)</li><li>F) 金属シート作業及び実習 (Sheet Metal Work)</li><li>G) 溶接、冶金、ガスを使用した裁断方法 (Welding, Brazing &amp; Gas Cutting )</li><li>H) 様々な施盤機器の使用方法及び実習</li><li>I) 整備工における安全面と注意点について (Safety Precaution at Workshop)</li></ul> <p>3. 電気工・整備工共通コース (科学及び数学セクション)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>A) 単位 (Unit)</li><li>B) 平方根 (Square Roots)</li><li>C) 比率、割合 (Ratio and Proportion)</li><li>D) 金属元素 (Metals)</li><li>E) 求積法 (Mensuration)</li><li>F) 単一化 (Simplification)</li><li>G) グラフ (Graph)</li><li>H) パーセンテージ (Percentage)</li><li>I) 熱処理 (Heat Treatment)</li><li>J) 数学</li></ul> <p>4. 電気工・整備工共通コース (エンジニア用製図コース)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>A) 製図用具及び材料の基礎 (Introduction to drawing instruments and material)</li><li>B) ラインとそのタイプ (Lines and Its Types)</li><li>C) 寸法 (Dimensioning)</li><li>D) スケール (Scales)</li><li>E) 幾何学上の構造 (Geometric Construction)</li><li>F) 絵で表した図表 (Pictorial Drawing)</li><li>G) 等則図法 (Isometric View)</li><li>H) 三つの角度からの投影図法 (Third Angle Projection)</li><li>I) 正宇投影図法 (Orthographic Projection)</li></ul> <p>5. エクストラカリキュラム</p> <ul style="list-style-type: none"><li>A) バレーボール</li><li>B) 庭の整備</li><li>C) キャンパス清掃</li><li>D) 近辺の高校の電気配線作業</li></ul> <p>講師及びスタッフ数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 校長 (1名)</li><li>2. 科学・数学セクション共通コース講師 (1名)</li><li>3. エンジニア用製図コース共通コース講師 (1名)</li></ul>
--	--

	<p>4. 整備工コース講師 (1名) 5. 電気工コース講師 (1名) 6. 事務員 (2名)</p> <p>生徒数： 電気工 21名 整備工 21名</p>
(3) 達成された効果	<p>本事業は完成が遅れるなどの問題があったが、無事、中央政府認可の職業訓練学校として完成することができた。中央政府に定められた入学生徒規定数(電気工 21名、整備工 21名 計 42名)は既に到達しており、必要な資格を有した講師の雇用も無事終了し、2011年8月の開校を待つのみとなっている。現地住民の「中央政府認可」への認知は高く、生徒規定数を達した現状でも問い合わせが続くなどの嬉しいニュースも届いている。建築段階においてもカルナータカ州の州都であるバンガロールの企業からも問い合わせがあるなど、現地の雇用のニーズに答えていることが確認でき、本校建設に対する効果は既に出てきており、今後も地元の期待に応えられるように常に適切な授業を供給し、雇用を生み出させるように取り組みたい。</p>
(4) 持続発展性	<p>質の高い授業内容を生徒に供給、インド国内の技術ニーズの適切な把握と同校のコースへの反映、企業と生徒への橋渡し、卒業生のフォローアップなどを行い、卒業生の雇用を確保することにより、より地元の評価が高くなり、本校へ通う生徒を維持できるだろうと思う。また、毎年、現地の職業ニーズにより中央政府も認可基準を変更することがあるために、その基準を満たすための資金の確保をいかにこなっていくことが出来るかが現在の課題であるが、当面は現体制を維持していくことにフォーカスし、特別コースなどを設け、副収入を得ることにより、設備投資の資金を得たいと考えている。設備投資のための資金確保は、定められた授業料では現在困難なため、特別コースを設けざるを得ないが、地元のニーズを調査を重ね、掌握した上で、特別コースを設置していく予定である。</p> <p>それらの事項を満たすために、本会では6年計画(内容、収支、予測される投資内容など)を策定しており、雇用情勢の変化、中央政府への対応策などの準備を実施している。</p> <p>また、ムンバイ、デリー、ハイデラバード、バンガロールなどにある中央政府認可の職業訓練学校や企業への視察を重ね、雇用ニーズと本職業訓練学校の教育内容及び設備などが合致しているかどうかなどの調査を重ねていく予定である。</p> <p>これらを通して、職業訓練学校の維持管理及び発展を行っていく予定である。運営に関しては、中央政府の指示に従い、本職業訓練学校が主として運営を行っていき、本会及び現地カウンターパート BSVIA が運営などのアドバイザーとして常に関わっていく予定であ</p>

	る。7年後には、中央政府の規定通り、講師給与が補助される予定である。
--	------------------------------------

<p>3. 事業管理体制、その他</p> <p>本事業は、本会インド支部をビジャプール地区に設置し、本会から現地派遣日本人スタッフ1名を送り、現地カウンターパート BSVIA とともに事業を実施した。インド国内の労働事情などにより、度々事業を延期せざるをえなくなったことやコミュニケーションのミスなどが起こり、事業進捗に影響を及ぼした。本事業開始以前に策定した事業マニュアルの見直し及びコミュニケーションの強化を行い、本事業の持続のために生かし、発展させていく予定である。</p> <p>今後については、事業の維持管理に関しては、本職業訓練学校が中心に行い、本会及び現地カウンターパート BSVIA がアドバイザーとして携わり、発展への取り組みを行っていく。現地派遣日本人スタッフも継続して現地に滞在し、モニタリングを継続していくこととなった。</p>	
(1) 特記事項	特になし

完了報告書記載日：2011年7月5日

団体代表者名：社団法人アジア協会アジア友の会  
会長 萩尾 千里 (印)